

1. 油津港への要請

【現況】

油津港は、宮崎県南部に位置する天然の良港で、古くから大陸との海上交通基地として栄え、江戸時代に飢肥藩主により堀川運河が開かれ、木材の搬出が始まった。近代に入ってから昭和初期に阪神、関門等の定期航路、朝鮮方面への木材輸出が活発となるとともに、昭和13年には製紙工場が背後で操業するに至り、昭和27年に重要港湾に指定された。

油津港の主要取扱貨物は、木材チップや紙・パルプ、輸送機械等であり、製紙工場をメインとした周辺立地企業の原料の輸移入及び製品の輸移出を支える物流拠点として重要な役割を果たしている。特に、平成11年に東京・大阪を結ぶ定期RORO航路が就航、平成13年には韓国の釜山港との間に国際定期コンテナ航路がそれぞれ開設されて以来、海上輸送へのモーダルシフトの進展や経済のボーダレス化により、これらの取扱貨物量は年々増加の傾向にある。

【港湾計画改訂の背景】

油津港は、県南地域の産業振興の拠点としての役割を担っており、県南地域と大都市圏、アジアとの海の玄関口としてさらなる発展が期待されている。このため、港湾施設の狭隘化による埠頭の利用率の低下等が問題となっている中、新たな施設整備とともに、既設埠頭の機能集約・再配置を進め港湾の効率性、利便性、安全性の向上を図る必要がある。

一方、油津港の位置する日南市とその周辺は、豊かな自然と歴史に育まれた様々な観光資源が存在する地域であり、市民だけでなく観光客が集い、憩い安らぐ空間の形成も求められている。

また、港内に放置係留されているプレジャーボート等の適正な保管、管理を行うために、既存の小型船だまりの活用に加え、さらに小型船だまりの整備による早急な収容対策が必要となっている。

さらに、東南海・南海地震等による被害が想定される地域であることから、県南地域の防災拠点として、地域住民の暮らしの安全と安心を担保するために、大規模地震に対する十分な備えを行う必要がある。

2. 港湾計画の主な方針

宮崎県県南地域の産業活動を支え、地域経済や県民生活の安定・向上に貢献するとともに、人・物が集まり、大都市圏及び東アジア地域とを繋ぐために、物流・交流・環境・安全の4つの機能が融合した活力あるみなちを実現し、「県南地域の活力と発展のみなち “みなちまち、油津”」を目指して、平成30年代半ばを目標年次として、港湾計画を改訂する。

【物流】 物流機能の拡充・強化

- ①内貿ユニットロード機能の強化
- ②バルク貨物（危険物を含む）取扱機能の強化

【交流・環境】 快適な港湾空間の創出

- ①親水・交流空間の創出

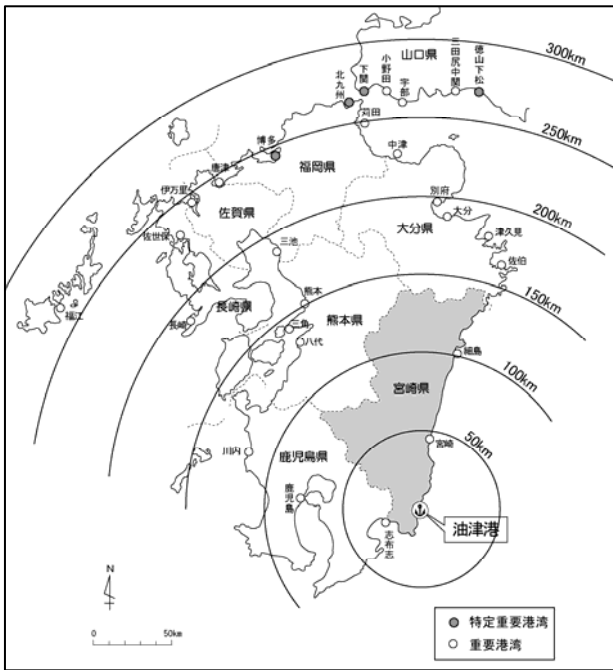
【安全】 安全な港の形成

- ①大規模地震対策施設の強化
- ②放置艇の適切な収容による航行船舶の安全性の向上

港湾管理者連絡先：宮崎県県土整備部港湾課

いまにし みのかた
今西、蓑方 (tel 0985-26-7189 fax 0985-32-4459)

3. 油津港の位置



【油津港位置図】



【油津港上空写真】

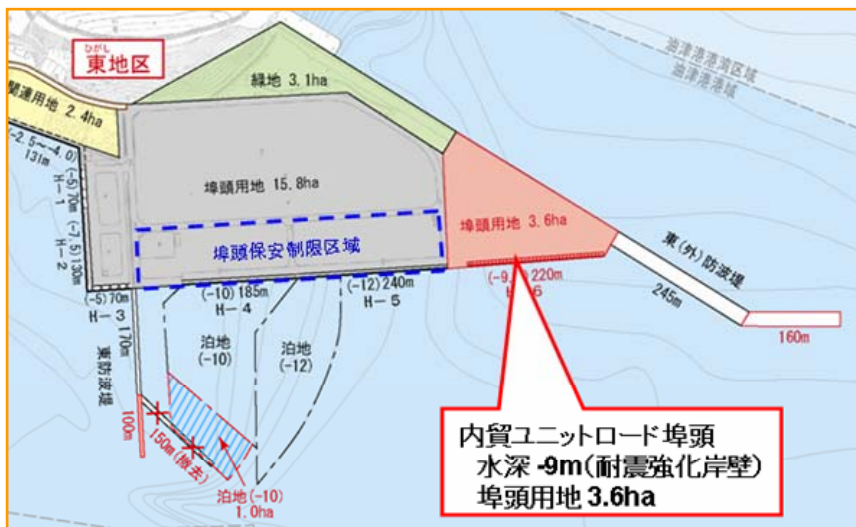
4. 主な計画内容

【物流】①内貿ユニットロード機能の強化

【安全】①大規模地震対策施設の強化

東地区では、コンテナおよびシャーシ貨物の増加に伴い、ヤード不足が顕在化し、荷役作業が輻輳しており、今後、増加するユニット貨物に対応するため、新たに内貿ユニットロード埠頭を計画し、外貿貨物と内貿貨物を分離し、効率的な港湾活動を確保する。

また、既定計画では、大節地区に旅客船埠頭とともに耐震強化岸壁が位置づけられているが、旅客船埠頭の事業実施が現段階では見込めないこと等の理由により、未整備のままとなっている。今回計画においては、内貿ユニットロード埠頭の新たな配置計画にあわせて、当岸壁を耐震強化岸壁に位置付ける。



東地区 内貿ユニットロード埠頭計画



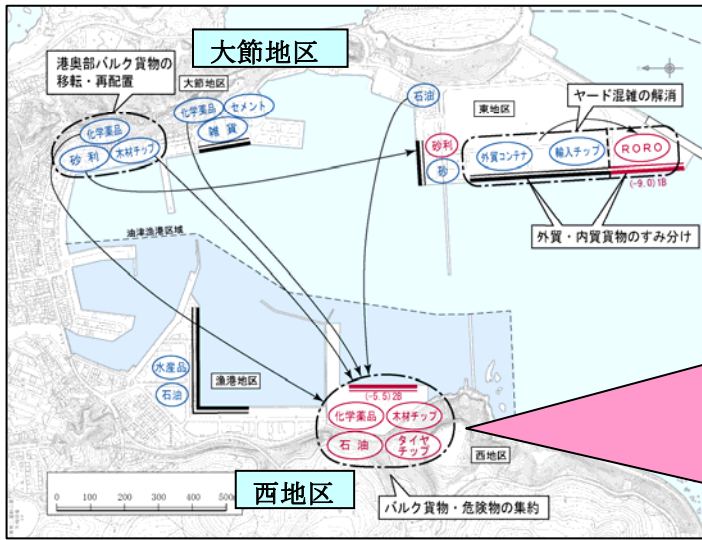
増加しているユニット貨物



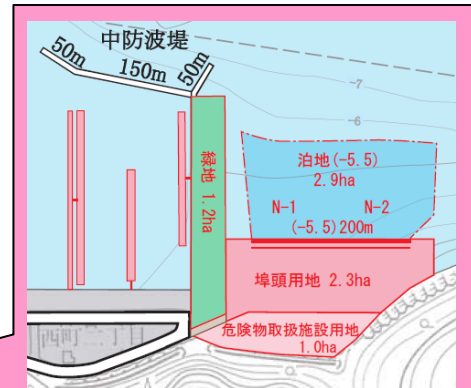
ヤード不足により荷役作業が輻輳

【物流】②バルク貨物（危険物を含む）取扱機能の強化

大筋地区では、危険物や砂利等を含むバルク貨物を取り扱っており、背後に民家があるため、安全性向上や環境改善の観点から貨物の移転・再配置が望まれている。今回計画では、西地区に内貿埠頭を計画し、港内の危険物を含む内貿バルク貨物を移転し、効率的な港湾活動を確保するとともに、安全性の向上を図る。



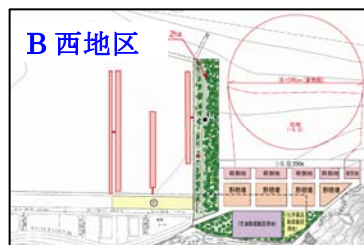
西地区 内貿公共埠頭計画



西地区 内貿公共埠頭
水深-5.5m
○埠頭用地 2.3ha
○危険物取扱施設用地 1.0ha

【交流・環境】①親水・交流空間の創出

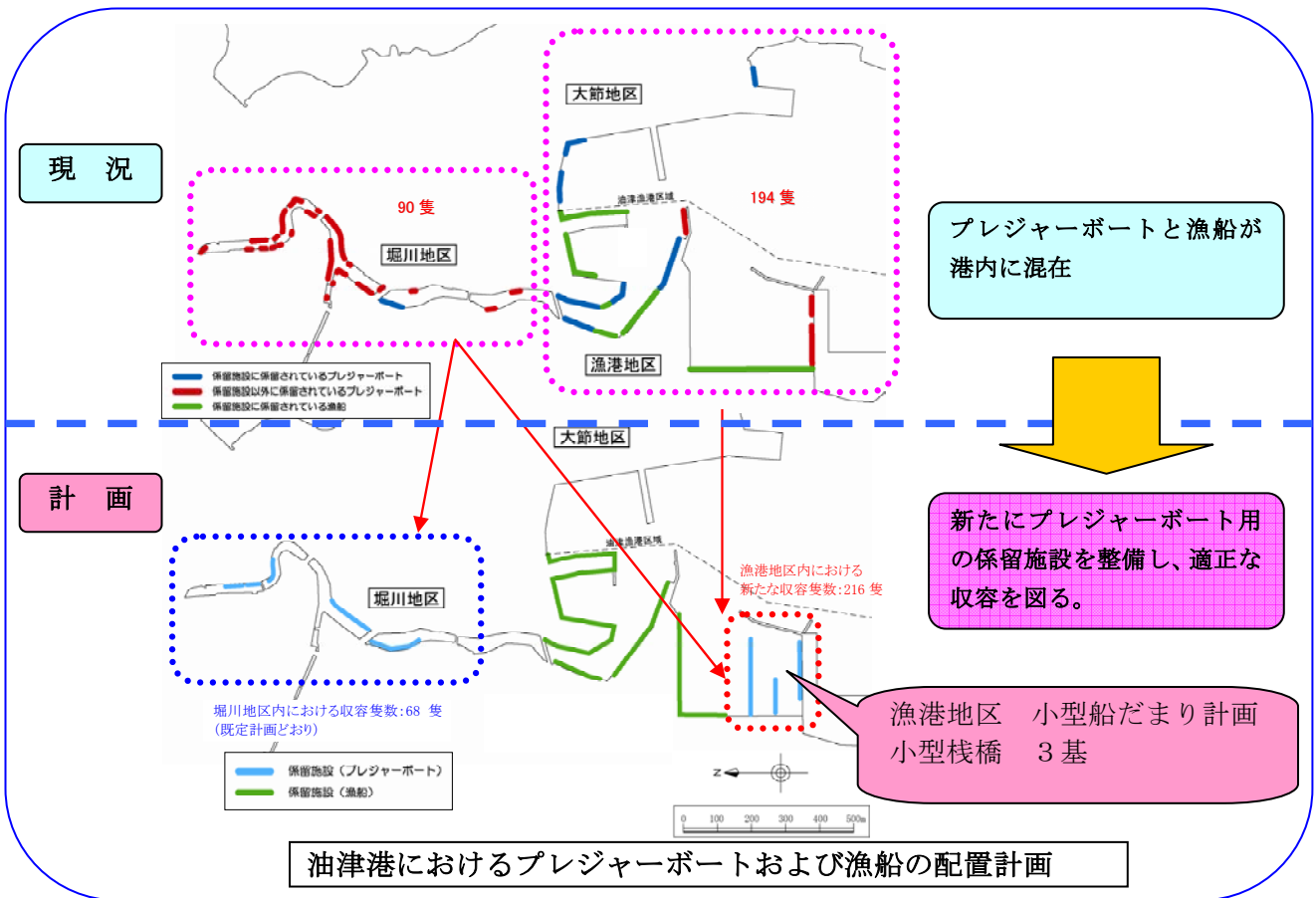
油津港では、地域住民から日常的に利用しやすい憩いの空間の確保と油津地区の活性化と地域の観光振興の視点から交流拠点空間の整備が求められており、今回計画では、④漁港地区の旧漁港施設跡地では、まちづくりと連携した環境整備を行い、交流拠点としての空間を創出する。⑤西地区では、小型船だまりの整備にあわせて、新たに計画する物流機能との間の緩衝機能を有し、かつ市民が身近に港を感じ、憩えることができる緑地を計画する。⑥東地区については、大型旅客船寄港時において、新規で計画するRORO船対応岸壁での接岸および背後の埠頭用地での歓迎式典やイベント用地の確保を図る。



油津港における親水・交流空間のイメージ図

【安全】②放置艇の適切な収容による航行船舶の安全性の向上

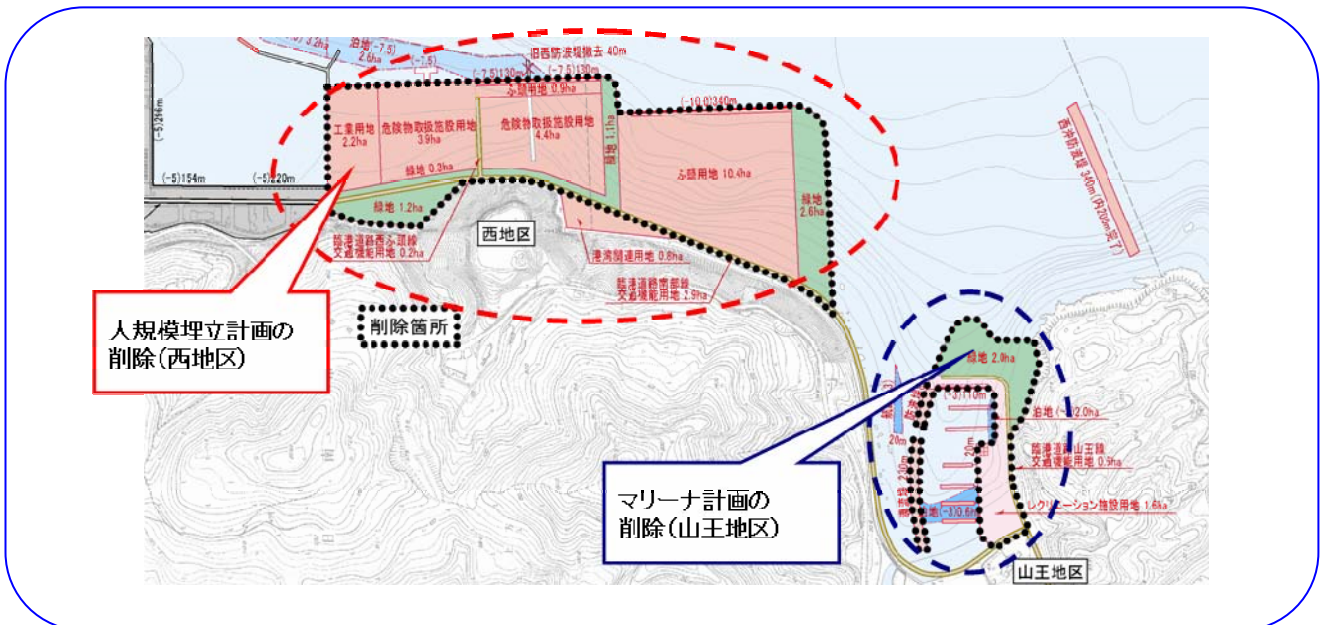
油津港では、港内にプレジャーボートのための係留施設が不足していることから、プレジャーボートと漁船が輻輳し、安全な船舶の航行など管理面や安全面から問題が生じており、新たな施設計画が必要となっている。このため、漁港地区の静穏域においてプレジャーボートを収容する小型船だまりを計画し、放置艇の適正な収容を図る。



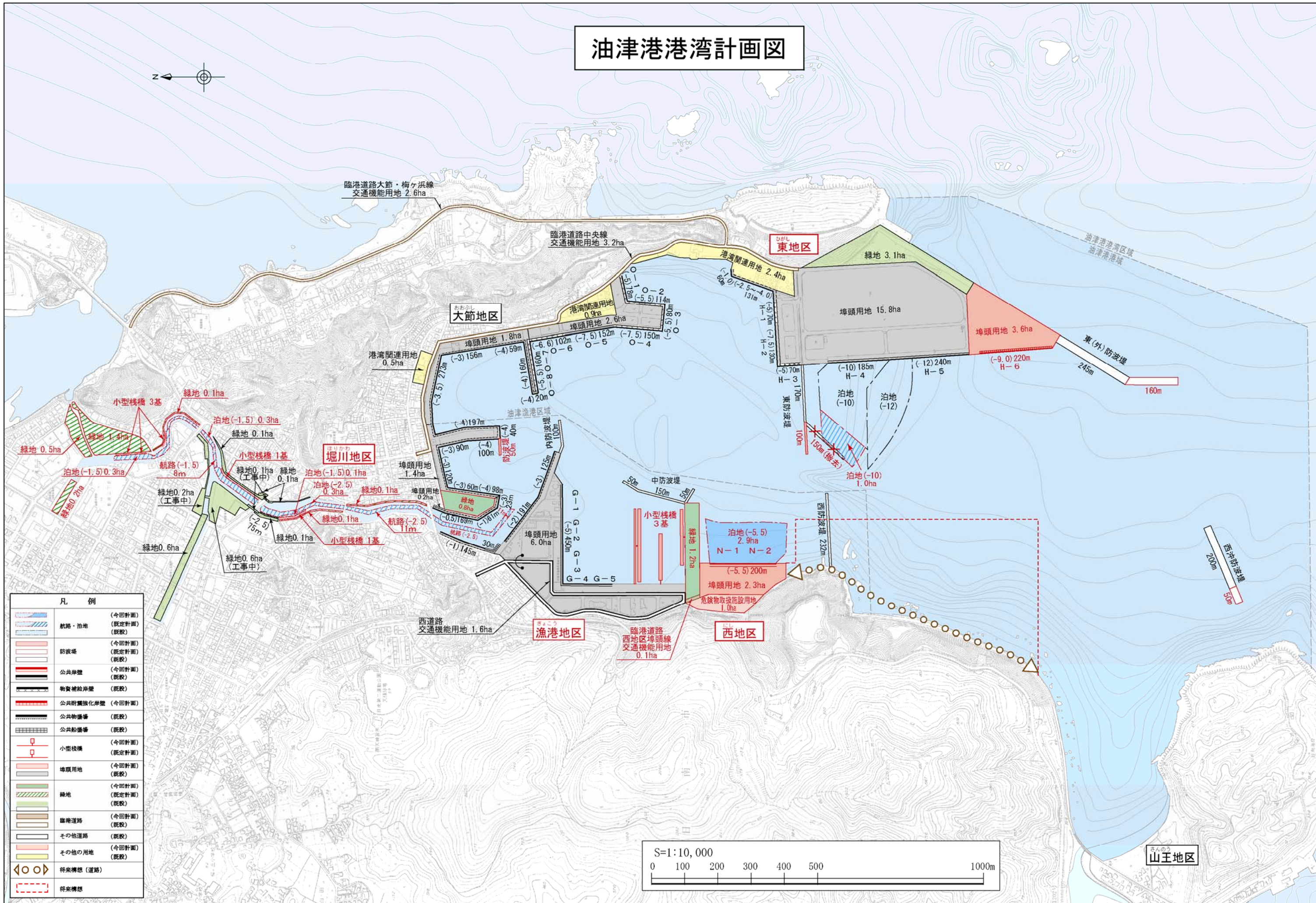
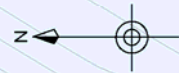
【その他】大規模埋立計画の見直し

既定計画では、西地区に埠頭用地や危険物取扱施設用地、工業用地が、また、山王地区にマリナーが大規模な埋立により計画されていたが、現時点で未着手となっている。

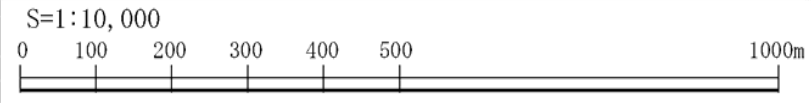
近年の経済社会情勢の変化や、製紙企業での非化石エネルギーへの転換施策による石油需要の減少、貨物輸送のユニットロード化等により、埋立需要が減少し、大規模埋立による整備の必要性が薄れている。これらの大規模埋立計画を見直す。



油津港港湾計画図



凡 例	
	航路・泊地 (今回計画)
	航路・泊地 (既定計画)
	防波堤 (今回計画)
	防波堤 (既定計画)
	公共岸壁 (今回計画)
	公共岸壁 (既定計画)
	物資補給岸壁 (既定)
	公共耐震強化岸壁 (今回計画)
	公共物揚場 (既定)
	公共物揚場 (既定)
	小型棧橋 (今回計画)
	小型棧橋 (既定計画)
	埠頭用地 (今回計画)
	埠頭用地 (既定計画)
	緑地 (今回計画)
	緑地 (既定計画)
	臨港道路 (今回計画)
	臨港道路 (既定計画)
	その他道路 (既定)
	その他の用地 (今回計画)
	その他の用地 (既定)
	将来構想 (道路)
	将来構想



山王地区